

性の在り方、LGBTQ+

学校では、一つの学級に一定程度の性的マイノリティの当事者が在籍していることを想定し、教師が多様な性に係る正しい知識をもつことが重要です。教師の言動は児童・生徒に大きな影響を与えるため、当事者である児童・生徒やその保護者等に寄り添える体制を整えることが必要です。

さらに、発達段階に応じた適切な教育により、いじめを防止するとともに、共生社会の担い手となる自覚を児童・生徒の中に育んでいくことが肝要です。

① 性の在り方

個人の性の在り方（セクシュアリティ）は、四つの要素の組合せによって形成されていると考えられています。

- ◆ 身体的性別（身体の性）
- ◆ 性自認（自認する性）
- ◆ 性的指向（好きになる性）
- ◆ 性表現（言葉遣いやしぐさ等、表現する性）

なお、この組合せは多様なため、はっきりと分けられるものとは限りません。

② LGBTQ+

多様な性の在り方を表す言葉として、世界中で用いられている言葉です。

Lesbian……………レズビアン（女性同性愛者）

Gay……………ゲイ（男性同性愛者）

Bisexual……………バイセクシュアル（両性愛者）

Transgender……トランスジェンダー（身体の性と異なる性別で生きる人、生きたい人）

Questioning クエスチョニング

又は **Q**ueer……クィア（自分の性が分からない、決めたくない人）

+……………プラス（どれにもあてはまらない人）

※ これまで行われてきた調査から、LGBTQの方々がどれくらい存在しているかについては、概ね全体の5%から10%程度と考えられています。

